

構想の基本的方向について（論点）

（ 総 論 ）

- 町にお住まいの方がこの町で自分らしく歳を重ねることができることが「生涯活躍のまち」ではないか。～**Aging in place**～
そこには若者、ファミリー層、高齢者が多世代共生し、それぞれが各分野の担い手として活躍できる環境が必要ではないか。
このような「生涯活躍のまち」が形成されることで、町への人の流れの創出や町の活性化が期待されるのではないか。

【第1回検討会及びその後における委員からの意見】

- ・ 高齢化への対応を基本に置くべきだが、地域包括ケアを構築するにしても、産業の活性化、人口増が伴っていなければ将来的に維持できないのではないか。
- ・ 若者、ファミリー層、高齢者の「多世代共生」は生涯活躍のまちの実現や維持に欠かせない。
- ・ 聖籠町は、農業の町（果樹の町）であり、町内で作られた作物を使ったおいしい給食を食べて子どもたちは育つ。また、こども園の通常保育料が無料であることは転入者にとって大きなポイント。低年齢の子を育てやすいので町外からの転入者も多い。地域のつながりの面では、消防団など地域の活動を行う男性が多い（最近は新しい人がなかなか入らないとも聞く）。

（ 各 論 ）

- 要介護状態となっても住み慣れたところで暮らし続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域づくり（地域包括ケアシステム）が必要ではないか。
 - 地域としては旧来の地縁的な結びつきとともに、積極的なコミュニティ形成が必要ではないか。
 - C C R Cには地域包括ケアシステムと連携し、（現在町にお住まいの方及び今後転入される方の双方にとって）「住まい」としての選択肢の提供と町全体を対象にした介護予防・健康増進のための機能を期待するか。町にとっての意義（コンセプト）をどう考えるか。

【第1回検討会及びその後における委員からの意見】

- ・ C C R Cとは、歳を重ねて豊かに生きるためのシステムである。都

市部ではこのシステムが、地域ではなく C C R C 自体で構成されているが、聖籠町においては、地域包括ケアシステムの中で、地域で共有する C C R C を考えれば、全国でその出発点になるのではないか。

- ・ 新潟聖籠病院の一層の充実を図ってほしい。
- ・ 高齢化により、今後、年金受給者の増加と個人所得税の減収になるのではないか。
- ・ 東港における企業誘致に伴う人口増加と相まって、居住環境や転入者が町に溶け込みやすい環境が必要であり、こうした機能も C C R C に期待する。

○ 高齢者が現役として社会参画することを支援し、生きがいの高揚を図っていくべきではないか。

【第 1 回検討会及びその後における委員からの意見】

- ・ 海外のファーマーズマーケットのような、高齢者も出店して人の集まる場所があると良いのではないか。
- ・ P R 不足なのかもしれないが、高齢者と子育て世代の交流やマルシェのような地域でのふれあいの場が町には少ないように感じる。多世代が交流する受け皿を整えるべきではないか。
- ・ C C R C を町のにぎわいの拠点のようにしてはどうか。交流食堂のようなものを作るなど。
- ・ 元農業従事者に先生になってもらい、家庭菜園教室や作物の悩み相談室などで若い世代と交流してもらってはどうか。

○ 町は、産業が集積する東港があり、新潟市中心地まで通勤・通学圏内という、若者、ファミリー層にとって好条件にあり、子育て支援を推進している。こうした環境を活かし、若者、ファミリー層の定住を促進すべきではないか。

【第 1 回検討会及びその後における委員からの意見】

- ・ 聖籠町にある東港は国を背負うくらい大きな経済的ポテンシャルを有する。⇒東港を我が国の国際貿易港と位置付け、企業誘致を図るべき。
- ・ 都市計画の見直しにより、準工業地域を指定してはどうか。
- ・ 農業・漁業の担い手を支援すべきではないか。

- ・ 町への転入希望の問合せは多いが、町は市街化調整区域が多く、紹介できる物件が少ない。都市計画の見直しが必要ではないか。
- ・ 町内に空き家が多くあるので、うまく活用できれば良い。高齢者ひとり世帯が増えることで、将来、空き家が増えてくるのではないか。
- ・ 育児サークルに参加する若いお母さんが少なくなってきたと感じる。
- ・ ファミサポなどの子育て支援制度の充実、高校などへ通うためのバスの本数を増やすなど、小学校以上の世帯の定住促進を図ってはどうか。
- ・ P R不足なのかもしれないが、高齢者と子育て世代の交流やマルシェのような地域でのふれあいの場が町には少ないように感じる。多世代が交流する受け皿を整えるべきではないか。[再掲]

○ 「生涯活躍のまち」構想の対象は現在町にお住まいの方及び今後転入される方の双方とし、いずれも、若者、ファミリー層、高齢者の多世代を対象とするべきではないか。町の関連施策について検討していくべきではないか。

【第1回検討会及びその後における委員からの意見】

- ・ 若者、ファミリー層、高齢者の構成バランスが重要。各層ごとの移住・定住促進策を検討していくべき。
- ・ 町民一人ひとりに「生涯活躍のまち構想」に積極的に参加することの重要性を認識してもらうことが重要。説明会などの機会を設けてはどうか。
- ・ 東京から高齢者を受け入れるだけのC C R C構想では町民にメリットがないため、多世代共生という内容を町民に理解してもらえよう、詳しく説明していくべきではないか。